

ラストスマイル

★★
看護職部門
優秀賞

【埼玉県・島田好子】

野上さん(仮名)は、40代後半の働き盛りで、高校生の息子さんと、間もなく受験を控えた中学生の娘さんがいらつしやいました。クモ膜下出血で倒れ治療を受けましたが、残念なことに意識が戻らないまま亡くられました。

その日の朝、野上さんの死後の処置をしていた夜勤の看護師を手伝うために、私が病室に伺ったときはすでに、呼吸器は外され、寝巻も新しいものに替えられていました。お顔を整えながら、髪が脂っぽくなっているのが気になり、奥様に洗髪を申し出たところ、快諾していただきました。

ベッドの端に野上さんの頭を寄せ、お湯をかけシャンプーを泡立てて、頭をマッサージするように髪を洗っていたところ、病室に差し込む朝の日差しを受け、野上さんがまるで笑っているように、本当に良い表情をされているのに気がつきました。

野上さんのお姉様が近くに寄ってこられ、「気持よさそうですね」と声をかけられると、娘さんも寄っ

てこられ、お顔を見るなり驚いた声を上げ「ねえ、ねえ、ママ見て。パパ笑っているよ、ほら」と奥様のほうを振り返りました。病室に明るく弾んだ声が響き渡りました。奥様も荷物整理の手を休め駆け寄ってきて、「本当だ。パパ、笑っている。気持ちいいんだね」と言っていて携帯電話を取り出し、髪に白い泡が付いたままの野上さんのお顔を写真に収めたのです。

一瞬戸惑いましたが、ご家族の気持ちは察すると、これまでの数週間、緊張の連続だったはずです。野上さんとの会話はもちろん、笑顔を見ることがもなかつたのです。

野上さんのその笑顔は、髪を乾かし、くして整えた頃には消え、亡くなった方のお顔に戻っていました。病室には、親戚や職場への連絡を買って出た息子さんの頼もしい声や、荷物整理をしながら指示をする奥様に、しっかりと答える娘さんの声が行き交っていました。